

山形県立寒河江高等学校 学校だより

ぶん すい れい
分水嶺



平成 30 年 1 月 31 日

第 10 号

2018年 みんなに期待すること

校長 小川 秀人

新しい年を迎え、たちまち一か月が経とうとしている。三年生はセンターテストを終え、出願校決定の三者面談を経て、二次試験に向けた準備を進めている時期であり、一、二年生もあと一か月後には、進級のかかった期末試験に臨まなければならない。例年以上に寒さの厳しい年明けとなり寒の入りとなったが、みんなそれぞれ、どのような思いで新しい年、2018年を迎えたのであろうか。

去年は、多くの生徒が、希望進路達成に向けた勉強はもちろんのこと、部活動やさまざまな生徒会諸行事にも積極的に取り組んでくれた。もちろん、思い通りにならないことも多く、勉強や部活動の中で迷い、悩んだことも少なくなかっただろう。それでも、辛いことや面倒くさいことから逃げ出さず、しっかり取り組んだ人は、たとえ目には見えなくても、確実に成長を遂げている。雪の下で、植物が人知れず春に向けた準備をしているようなものだ。恥をかくことを恐れて斜に構えたり、面倒くさがって努力を怠ってはいけない。ドイツの文豪ゲーテは言った「世界は粥（かゆ）で造られてはいない。君たちは怠けてぐずぐずするな。固いものは噛まねばならない。喉が詰まるか消化するか、二つに一つだ。」と。この学校を卒業した後、君たちが出ていく社会は年とともに厳しさを増している。少しでも自分を豊かにしたい、社会に通用する力を身につけたいと願うならば、どんなに困難に見えることにでも、挑んでいかなければ成長のきっかけがつかめない。少々の失敗や挫折など恐れるに足らず。「人間、努力している間は、迷うに決まったものだ。」と、これもまたゲーテの言葉である。

短い三学期、学校生活のあらゆる場面で、諸君の積極的なチャレンジを期待している。

MT探究発表会 2月14日(水)午後実施

2年生が58の班に分かれてテーマを設定し、一年間かけて進めてきた課題研究の最終発表会を、来月14日午後1時より寒河江市民文化会館で行います。開会式のあと、三グループに分かれてポスター発表を行い、その後、推薦のあった6つの班の皆さんにステージ上で発表をしてもらいます。助言者には、中間発表会と同じく、谷地高校の鈴木雄二校長先生と、寒河江工業高校の高橋剛文校長先生にお願いしています。限られた時間の中で、各班どのように研究を深めてくれたか、その発表が今から楽しみです。

3年生センター試験出陣式に“華”をそえる

「チェリン」登場 生徒会から激励袋配布

センターテストを翌日に控えた1月12日（金）、本校恒例の「出陣式」が行われ、今年には最後にだれもが予想しない驚きのゲストが登場。ご当地キャラとして、イベントに引っ張りだこの「チェリン」が、その体からは想像もできないようなフットワークで動き回り、ホワイトボードを駆使しての励ましトークと、握手やハイタッチで3年生の緊張を和らげ、会場を笑顔でいっぱいにくれた。また、生徒会執行部から、手作りの紅白ろうそくや折鶴、メッセージカードなど心のこもった品々の入った“激励袋”が受験生全員に配られた。人生の岐路に立ち、孤独な戦いに臨まなければならない3年生にとって、心温まる励ましに満ちた出陣式であった。

寒河江高校・谷地高校合同展 山形で開催

本校と谷地高校とは、「キャンパス制」という連携事業を行っており、その一環として、この時期に美術部、書道部、茶華道部が合同展を開催しています。幅広い方々に活動を見て頂くため、例年山形市で開催しており、今回で五回目となるこの展覧会、昨年までのナナビーンズから、会場がアズ七日町に変更になったため、各部ともその準備に追われています。県内トップレベルの活動実績を残す、伝統ある両校の文化部活動を一人でも多くの来場者に見て頂ければと願っています。寒い中ですが、どうか皆さんも足を運んでください。

《会場》 山形県芸文美術館 第1・第2ギャラリー（アズ七日町2階）

《会期》 平成30年2月3日（土）～2月7日（水）

10:00～17:00（最終日は15時まで） 入場無料

《展示内容》 寒河江高校…美術部作品、書道部作品、茶華道部作品、活動報告、顧問作品
谷地高校…美術部作品、書道部作品、活動報告、顧問作品

《イベント》 茶華道部による茶会 2月4日（日）10:30～15:00

同ギャラリーにて 参加無料

【第26回全国高等学校文化連盟将棋新人大会】

吉田 貴如（2-4）2勝挙げるも予選突破ならず！

1月25日から27日まで、静岡県浜松市で行われた同大会に、山形県代表として臨んだ吉田選手であったが、予選リーグにおいて幸先良く2勝を挙げたものの、残り2試合を落とし、残念ながら決勝トーナメントに進むことはできなかった。力の拮抗する全国の強豪と戦った貴重な経験を、来年度の大会に生かし、次こそ全国上位進出を目指してもらいたいと願っている。